

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和6年7月16日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470104559		
法人名	株式会社 縁		
事業所名	グループホーム楽々苑		
所在地	広島県広島市安佐北区安佐町大字飯室1563番地2 (電話) 082-835-3222		
自己評価作成日	令和6年6月5日	評価結果市町受理日	令和6年8月14日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosvoCd=3470104559-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和6年7月8日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

広島市の北部を古くから地域の拠点としている安佐北区安佐町飯室にグループホームは位置している。高速道路のICも近くにあり、アクセスも整っている。四季折々の空気を感じながら、自然・安心・快適の運営理念のもと、開設17周年を迎え、近年グループホームで最期まで暮らしたいという利用者・家族が増えてきており、終末期ケアにも取り組み、利用者が主役となれる介護を提供している。地域のグループホームとも連携をし、意見交換を行っている。協力医療機関も充実しており、訪問看護ステーションとの連携も図り、日頃の健康管理・急変時の体制も整えている。向かいの建物には介護付き有料老人ホーム湯楽苑とグループホームASA楽々苑があり、日常的に入居者・職員の交流があり、合同での避難訓練・季節行事・研修会等を行い、相互の質の向上に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

定期的開催される運営推進会議では、事前準備・会議・報告書作成を丁寧に行い、多職種の出席や利用者の発言機会も工夫し、活発な意見交換を行っている。近隣のグループホーム同士が互いの会議に出席し、感染症予防や災害時避難訓練の内容など有意義な情報交換を行っている。地域に理解されながら多方面からの助言や提案を得て、日々のケアに反映させている。日中はフロアでの活動と居室での休憩を組み合わせ、メリハリのある生活になるよう工夫し、リハビリ体操の誘いや、その日の状態によって入浴介助の方法をケアプランに示すなど、できる事を継続させる自立支援に努めている。今年と同敷地内の3事業所合同で「夏祭り」を開催予定であり、感染対策をしながら更に地域との交流や楽しめる時間を企画中である。

自己評価	外部評価	項目(1階 Aユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所の理念「自然・安心・快適」として掲げている。新入職員研修においても、必ず共有できるように、時間を作り取り組んでいる。運営理念は毎朝の朝礼時に5S活動（整理・整頓・清掃・清潔・しつけ）と共に唱和している。申し送り・ミーティング・施設内研修時にも、事あるごとに理念に立ち返る様に努めている。	開設時に作成した理念は朝礼時に唱和を続けている。職員は日頃から管理者と共に折に触れ理念に立ち返っている。理念「自然・安心・快適」「主体性尊重・継続的な介護支援」に照らし合わせ、外出支援・家族の思いや今の力を継続させる等、理念との繋がりを自分に問いながら実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	近隣にスーパーがあり、近所の方々には施設の前を通り買い物に行かれる中で、出会えば必ず挨拶を行い、日常的な付き合いをしている。学区内の中学校からの依頼に応え、職場体験の受け入れ要望にも応えている。	コロナ禍前は、近くのスーパー広場のいきいき体操に参加し住民と挨拶等をしてきた。現在も苑外掃除の時や事業所前で挨拶をする等、自然な交流を続けている。避難訓練時は地域防災士・自治会役員が参加し、地域の中学生の職場体験の受け入れ・保育園児とのふれあい等、地域との交流を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	中学生職場体験学習にて、高齢者や認知症の特性・対応方法の知識・技術を伝えた上で、入居者とのふれあいを経験し、質疑応答にも応じている。地域ボランティアの演目披露や、介護相談も行った事がある。地域包括からの「認知症ステップアップ講座」受け入れにも協力した事がある。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	概ね2か月に1回、奇数月の第3金曜日に開催している。同一地域のグループホームへ相互に出席し、助言・意見交換を行っている。地域包括支援センターの出席もある。グループホームの状況や行事の様子を写真を提供しながら紹介し、分かり易く理解を求めている。関連業者の参加や理解を求め、参加数を増やしている。	会議で事業所の状況など写真を用いて分かり易く伝え、双方の意見交換・質問など活発に行っている。利用者、民生委員、地域包括支援センター、クリニックの相談員、配食業者、訪問看護、近隣のグループホーム職員など多方面の出席があり、普段の生活に活かせる多角的な情報や提案を得ている。	毎回の運営推進会議の準備がしっかり行われており、利用者の出席や発言機会も工夫し有意義な会議となっている。議事録は事業所の取り組みや、日々の介護の根拠を意識しながら、分かり易くまとめている。家族に議事録を送付する事で、更に本人を共に支え合う関係性を継続されるよう期待する。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	相談等に関して、直接窓口で相談する事もあり、生活保護者のGH入居は、各区の生活保護課と連携をとり、スムーズに入居できる様にしている。また、金銭管理には社協による「かけはし」を利用している。地域包括からの「認知症ステップアップ講座」受け入れにも協力した事がある。	管理者は電話・メールや担当課に出向き、事業所運営等について質問や相談をしている。社会福祉協議会と生活課には毎月、生活状況を伝え、円滑な福祉制度利用に繋げている。現在は参加していない「いきいき体操」について地域包括支援センターから最近の情報を得て再開の検討の参考にしてている。	

自己評価	外部評価	項目(1階 Aユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束の弊害を正しく理解する為、新人、施設内、外部研修にて身体拘束を行わないケアの実践を周知している。玄関・居室は常に開放し、防犯上夜間のみ玄関を施錠している。学びや復習の為、年数回は各自課題を提出し、理解を深めている。委員会を設置し3か月に1回委員会を行っている。</p>	<p>職員全員が身体拘束の弊害を正しく理解しケアを行うよう周知徹底させている。3か月毎の身体拘束適正化委員会や年2回の研修時に、管理者が例題を挙げ身体拘束をしないケアを意識付けている。利用者にとってストレスになる声かけ、反応を観察する関わり等、具体的に尊厳を守る話し合いをしている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>新人研修の必須項目として年間研修計画に入れ、虐待防止に努めている。虐待は主に夜間で発生し易い事を踏まえ「虐待防止の合言葉」を整備し、夜間連絡網で各事業所の職員同士で唱和をしている。広島市主催の研修は毎年参加している。虐待防止検討委員会を設置している。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるような支援している。</p>	<p>司法書士・社会福祉協議会の専門員等から、直接制度や活用方法について学び、入居者の方の成年後見制度の手続きがスムーズに行えるようにしている。また、施設内研修の中でも権利擁護に対し、学ぶ機会を設けている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約・解約の際は、別室で環境を整えて、利用者・家族に説明を行う。分かり易い言葉で十分に説明を行い、納得されたかの確認も行うようにし、同意やサインをもらっている。改定の場合は文書で説明し個別に同意書へサイン・押印をもらう。契約後でも、適宜質疑応答を行っている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>利用者ごとに担当スタッフを定め、個別の意見や要望に細かく応える体制をとっている。運営推進会議においても、家族が言いやすい雰囲気作りを心掛けている。玄関には、苦情・相談ボックスを用意し、いつでも投函出来る様にしている。</p>	<p>担当職員を通じて利用者の意見が出やすく入浴回数や朝ごはんが良いなど多数の要望を把握し実現に向け検討している。新聞購読が実現し利用者間での話し合いに繋がった例がある。家族には毎月、楽々苑新聞と医療連携ノートを郵送し特に医療的な変化は細やかに連絡し家族の意見を聴いている。</p>	

自己評価	外部評価	項目(1階 Aユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>適宜の個別面談において、意見を聴取するよう努めているが、言いにくい事もあり、職場を離れて意見聴取する事もある。職員互助会主催の忘年会・親睦会等により、何でも話せる環境作りを整えている。</p>	<p>管理者は、普段から職員が意見や提案を出し易い雰囲気作りに努めている。個別面談時は、個々の職員の目標を受け止め、実現に向けて後押しをしている。時には場所を変えて相談を受ける事もある。ほぼ毎日、法人グループ代表は事業所を訪問し、職員への労いを兼ねて声かけを続けている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>勤務評価制度を導入し、自己評価・所属長評価・代表者評価を定期的に行い、就業環境の改善に努めている。処遇改善Ⅰ、特定処遇改善Ⅱ（令和6年4月からは特定処遇改善Ⅰ）の取得を行っており、賃金アップを図っている。有給休暇の取得も進めている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>年間計画を定め、施設内研修を月1回、スタッフが講師となったり、外部講師を呼んで実施している。また、国家試験受験予定の職員へ、施設外研修等に関して案内や勤務調整も行っている。技能実習生を受け入れており、トレーニングする職員も、振り返り等の良い機会になっている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>グループホーム協議会に加入しており、研修会・交流会に出席している。グループホーム安佐連絡会では、運営推進会議の参加を行う他、電話でアドバイスをしたりと交流している。隣接の湯楽苑やASA楽々苑とは、相互に情報提供や困難事例の相談をしている。医療法人主催の研修へは月に1回参加をしている。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>入居申込みの時点では、申込用紙に本人、家族の希望欄を用意し記入頂き、聞き取りを行っている。その後に本人面談を行い、困っている事・不安に思っている事・どのような暮らしがしたいかを把握し、入居を開始してもらっている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(1階 Aユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	利用開始当初の、家族の不安・心配等の心中を察し、本人の様子等を細かく伝える。伝える事により、家族が思いを打ち明けられるので、より良い信頼関係を作る事が出来ている。面会の時間や回数を制限せず、実施頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	利用に際しては、急を要する場合は、出来る限り対応を行うようにしている。グループホームがまだ早いと判断したなら、隣接の介護付き有料老人ホームへつなげる事もある。また、関連法人の施設への紹介も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者と共に過ごしているという意識を基本とし、支え合う人間関係作りを目指している。戦争体験や昔からの行事についてを開催時、年齢の若い職員への様々な助言や体験をお話頂けることもある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	毎月の状況を楽々苑新聞や個別の手紙で把握頂き、家族とは暮らしの中の出来事を共有している。体調不良が発生した場合にはすぐにご家族への連絡を行っている。毎年の情報の公表制度にて取り組みを記載し、閲覧頂けるよう、掲載された旨を家族へ知らせている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	遠方の親戚の方が来苑された時等は、面会簿にて関係性の確認を行い、個人情報保護に留意しながら近況を伝えて、関係性の維持を図っている。携帯電話を持参の利用者もおられ、いつでも電話ができる様支援している。	コロナ禍による面会制限中は、タブレット画面をみながら利用者と話をしたり、遠方の場合は可能であればオンライン面会がスムーズに出来るよう支援した。職員はその画像を記念写真として送付したり年賀状の手伝い、また携帯電話の充電を気遣い、友人との会話を楽しめるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目(1階 Aユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の関係を把握し、利用者間の関係がこじれないように、スタッフが意識的に関わる様になっている。孤立しないように関わり易い席の配慮をしている。1階・2階・湯楽苑・ASA楽々苑との合同行事も行っており、利用者同士の交流を深めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了時に、家族には必要に応じて、相談や支援に応じる用意がある事を伝えている。他種の事業所に退去された利用者の様子を電話等で伺い、移動先の事業者からの質問に伝えている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	積極的にリハビリを行いたいと言われる方には、文字を書いて頂いたり、歩行訓練を実施して頂く等をケアプランに入れ、支援を行っている。本人のやりたい事・やってみたい事を把握し、その人らしい生活ができる様支援している。	利用開始時に聞き取った生活歴、困っている事、不安などに加え、日頃の関わりの中で会話・表情からも一人ひとりの思いや希望、得意なことを把握している。今までの情報とは異なった内容を把握した時は、家族の面会時に話題にする事もあり、話の中から新たな生活歴やその人らしさを知る事もある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	アセスメントで把握出来ない事は、本人や家族、以前の担当ケアマネジャーや関係機関、知人により、情報収集している。情報収集した事は記載に残し、職員間での共有を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	タブレットを使用した個別の生活行動記録により、一人ひとりの生活情報が把握出来ており、毎日の送り等により、スタッフ間の共有を行っている。		

自己評価	外部評価	項目(1階 Aユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>利用者ごとに担当スタッフを定め、日常生活の中で、本人の思い・家族の考えを把握し、各ユニットの計画作成担当者との意見交換し、ケアプランを作成している。プランの実施状況はチェック表に記録し、タブレットへの記録にも残している。</p>	<p>本人家族の意向、医療情報、担当職員の情報を中心に、計画作成者を中心に多職種（時にはかかりつけ医、後見人）が検討し計画を作成している。入浴や移動の介助は、変化する利用者の状況に合わせた支援内容を具体的に記載しリハビリ体操への参加を促し等、自立支援を意識し計画書作成に努めている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>気づきや介護内容の変更等は、申し送りノートに記載し、業務に入る前に必ず目を通し、情報の共有に努めている。バイタルチェック表により、日々の様子（KT（体温）・BP（血圧）・P（脈拍）・食事量・排泄等）が把握され、見直しにつなげている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>入居される前まで、利用者の方が勤めておられた職場の仲間・ご近所の方が集い、食事やお茶を共に楽しめるよう支援している。ご家族との外出支援もおすすめている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>消防には定期的に訪問して協力を依頼しており、運営推進会議の参加も要請している。地域包括支援センターからのいきいき体操や百歳体操を案内頂き、検討している。また、地域の保育園・小学校・中学校とも交流を深めている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>本人・家族の希望を重視した医師が、かかりつけ医として往診・受診している。かかりつけ医以外の他科の受診は、希望に応じてスタッフが付き添い支援している。また、施設と病院との医療連携を、医療連携ノートとして本人・家族に毎月伝えている。</p>	<p>契約時に協力医療機関の説明後、本人・家族が納得して夜間・緊急時の対応可能なかかりつけ医を決めている。訪問診療時にはスタッフが同行し職員・訪問看護師と情報を共有し適切な介護に繋げている。変化時は家族にその都度連絡し、医療連携ノートとしてまとめ毎月、家族に送付している。</p>	

自己評価	外部評価	項目(1階 Aユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護と医療連携をとっており、ICT（情報技術）を活用しながら、入居者の健康管理や特変時における医師との連携、365日24時間体制での相談・指導体制をとっている。訪問看護の様子は、医療連携ノートに記載し、毎月家族へ報告している。看護視点からの助言を支援に活かしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医師や看護師、相談員により、入院中の経過説明を十分に受けている。早期退院が出来るよう、グループホームでの受け入れ可能な身体状況の説明も担当医や相談員に行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化、看取り指針を整備し、契約時に説明している。契約時に意向確認をし、ケアプラン内へ記載している。重度化や終末期が予測される場合、家族・本人と対応や意向を再度確認している。事業所で出来る事・出来ない事を説明し、本人・家族同意のもとグループホームでの看取りも実施している。	契約時に事業所指針を文書で説明し、その後も本人・家族の意向を確認している。終末期には本人・家族の「楽に過ごせる、緩和の気持ち」を大切にし、医療関係者と連携をとり看取りケアに取り組んでいる。利用者の好きな曲を流した事の報告を含め、終末期・看取り介護の研修を毎年、行っている	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変や事故発生に備え、マニュアルを用意し、施設内研修を年間研修計画に盛り込んでいる。「事故防止について」「緊急時対応について」の研修を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	マニュアルを用意し、施設内研修を行い、定期的に(5月・11月)訓練を行っている。消防署から助言・指導を頂き、地域の防災士や連合自治会長からの助言・指導を頂いた事もあり、地域との相互協力の契約も締結、協力も呼び掛けている。災害時情報共有システムの訓練も参加している。	両隣の介護事業所・介護施設と合同で、利用者と共に避難訓練を年2回実施している。非常階段を車椅子のまま複数人の介助で降りる訓練や、シーツを活用するなど臨場感を持って避難訓練を行っている。消防署や地域の防災士からの助言を得ており、運営推進会議で共有し協力体制に繋げている。	

自己評価	外部評価	項目(1階 Aユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個人情報保護方針を策定している。人生の先輩として、教えを乞う事も有り、トイレ誘導時もさりげなく、目立たない様に声を掛け、カーテンを引く等のプライバシーに注意し、心配りをし、尊厳ある支援を行っている。	毎年、権利擁護の研修を実施している。利用者の意思決定を尊重し、日頃から一人ひとりの尊厳を損なわない口調・声かけを行い、トイレ戸にカーテンを設置する等、心配りをしている。申し送り時や職員間の会話時もプライドやプライバシーを傷つけないよう配慮しながら工夫している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人が気持ちを表現し易いような言葉掛けを心掛けている。自己表現しにくい利用者に対しては、表情・仕草・声のトーンで読み取る事を心掛け、介護者の視点ではなく、利用者の思いや希望に添った支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	食事・入浴などは共同生活が主だが、それ以外の生活では個々に応じた体調や生活リズム、ペースに合わせ対応している。利用者が主役となり、介護側が主役を支える脇役となるよう努めて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	定期的に美容室に訪問してもらい、本人の希望に合ったカットを実施している。行事には、好みの服を選び、おしゃれを楽しんでもらっている。毎日化粧を行う支援を行う様、ケアプランへ個別での設定を行っているご利用者もおられる。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事のメニューを毎日の日課としてご利用者に書いて頂き、ご利用者が見える所へ設置し、確認出来るよう準備している。食後のトレイ拭き等、機能訓練も兼ねて出来る事を把握し、行って頂いている。	高齢者向けの配食サービスを活用し、個々に合わせた食事形態や丁寧な盛り付けに努めている。メニューを書いたり、軽量の食器洗い等、気分よく力を発揮出来るようにサポートしている。土鍋で七草粥、菱形寿司や赤飯、時にはウッドデッキでお茶会を楽しむ等、多様な食支援に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目(1階 Aユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>委託契約により、必要なカロリーや栄養バランスは考慮されており、食事量・水分摂取量を記録し、把握しており、一人ひとりに応じた支援を行っている。医師からの飲水制限がある利用者には更に配慮を行っている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>一人ひとり、自歯・義歯の把握をし、口腔内が不潔にならないよう、本人の能力に応じ、毎食後の口腔ケア・歯磨きを実施している。義歯は毎晩洗浄液に浸けている。訪問歯科の往診により、口腔ケア・歯磨き方法の指導や助言をもらい、相談後、本人に合った道具を準備している。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄状況を時間と共にチェック表へ記載し、排泄リズムを把握している。それに合わせた誘導を行い、チェック表に基づいて早めのトイレ誘導を行う事で自立した支援を行っている。日中は介助者二人でのトイレ介助、夜間のみオムツ対応を行う等の工夫をし、個別での対応をしている。</p>	<p>排泄状況の記録を元に早めの声かけを行い、排泄の失敗に繋がらないよう努めている。夜間オムツ使用の場合も日中は二人介助にて立位保持し、トイレ排泄を可能にしている。トイレまでの歩行やトイレ動作も生活リハビリとして捉え、毎朝の便通が習慣化する等、排泄の自立支援に努めている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>便秘による身体状況・精神状況の変化を重視し、毎日午前中に行う体操には、腹部マッサージを取り入れ、食事の汁物以外で1日1,400～1,500ccの飲水を目指し、便秘防止に取り組んでいる。便秘時には、主治医や訪問看護師に相談し指導をもらっている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>週2回の入浴を実施している。入浴の好き嫌いの好みを把握し、普通浴・シャワー浴・足浴・手浴を選んでいただき、実施している。入浴順番は本人の意向に沿いながら声掛けを行い対応している。</p>	<p>観たい番組に合わせて入浴時間を調整したり、気の合う人と入浴する等、柔軟に対応している。入浴時は状況に合わせて見守り・出来ない事を手伝い、又は二人介助にて安全を確保している。個々の名前を書いた足拭きマットを使い水虫感染予防や皮膚の観察を行い利用者本位の支援に取り組んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目(1階 Aユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	本人の生活リズムで、休息や安眠が出来るよう支援している。アイスノンや簡易湯たんぽにより気持ち良く安眠出来るようにしている。室温を把握し、衣服・寝具等を調整したり、エアコンを活用したりと安眠できる環境にしている。一括で室温管理ができるシステムを取り入れている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	協力処方箋薬局により、個人ごとの配薬を行っている。内服管理表により、薬への理解を深めている。居宅療養管理指導も実施してもらっている。内服する際には、職員により3度確認を行っている。服薬変更がある場合には、連絡ノートを用い職員全員が把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	能力に応じた役割作りをしており、一人ひとりの特技が発揮出来るようにしている。体を使う内容、頭を使う内容と、毎日の楽しみごととして実施して頂いており、女性の利用者には、おしゃべりしながら洗濯物たたみや袋たたみも実施して頂いている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	外の散歩は、利用者の希望に応じて、苑庭・駐車場等に出かけている。家族の協力により、花見・ショッピングや、季節ごとの外出を支援している。プランターへの種蒔きを行って頂き、週に何度かはウッドデッキへ見に行っている。	玄関前の和風庭園や駐車場を散歩したりウッドデッキで外気浴を楽しみ、近くのスーパー・家電店などに職員と買い物に行く事もある。また家族協力により墓参り・法事などへの外出がスムーズに出来るよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	自分で金銭管理出来る利用者は、少額な金銭をご自分の財布で管理されており、自動販売機のジュースを買う事も出来るよう支援している。ご希望があれば買い物代行も行っている。		

自己評価	外部評価	項目(1階 Aユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	携帯電話を持参の利用者の方は、いつでも電話出来るよう支援している。本人の希望により、スタッフルームの電話が利用出来る。掛ける事が難しい場合は代行も行っている。書いた手紙はポストへの投函を行っている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共同空間はゆったり、のんびりして頂けるよう、装飾や家具に留意している。季節ごとの飾りや、手作りの作品を飾っている。各トイレ・居室にはナースコールを整備し安全・安心を心掛けている。室温・湿度に配慮し、窓解放やエアコン利用を行っている。トイレ掃除は1日2回実施している。	広い窓から、桜の木や少し離れた民家に止まる鳥、車の往来を一緒に見ながら思い出話に繋げている。木製の円卓を囲み利用者同士が穏やかなコミュニケーションをし易くしている。床などは薄めた消毒剤で毎日2回拭き、空間除菌脱臭機を置き居心地よく過ごせるよう空調調節にも努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	個室でのプライベートタイムもあり、ホールで仲良し同士が、おしゃべりや楽しみが共有出来るよう、座る位置に配慮している。一緒にスポーツ観戦をする姿がある。誕生日会は、各利用者の誕生日当日に開催する事で、少なくとも年に一回は主役になれる場を設けている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室内は、本人・家族・職員が共に整備している。本人の好みのぬいぐるみ・家族写真など、本人の大切な物に囲まれて過ごしてもらっている。ベッドの向きは制限しておらず、一人ひとりの希望に合った向きへ設置している。	アルバム・園芸セット、使い慣れた椅子、リハビリ用具などを持ち込み、本人らしい居室となっている。電灯のスイッチ操作を自力で出来るよう紐を吊り下げなど自立支援に努め、また、床ずれ予防の為に、同一姿勢にならないようベッドの向きや位置を変える等、配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	入居時は繰り返し、場所の説明を行い、把握出来るように支援している。利用者によっては、ご自分の居室を迷われる為、居室入口に表札を提示しており、目印にしている。		

V アウトカム項目(1階 Aユニット) ← 左記()内へユニット名を記入願います

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目(2階 Bユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所の理念「自然・安心・快適」として掲げている。新入職員研修においても、必ず共有出来るように、時間を設け取り組んでいる。申し送り・ミーティングにも、事あるごとに理念に立ち返り、日々の業務に活かしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している。	隣にスーパーがあり、近所の方々には施設の前を通る中で、出会えば挨拶を行い、日常的な付き合いをしている。最近の時事問題にて制限される部分もあるが、事業所の行事に地域の人を招待したり、地域の保育園とは毎年1回ふれあいを通して、交流会を実施している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	最近の時事問題にて制限はあるが、中学生の職場体験学習を受け入れ、高齢者や認知症の特性・対応方法の知識・技術を伝えた上で、入居者とのふれあいを経験し、質疑応答等にも応じている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	概ね2ヶ月に1度開催している。同一地域のGHへも相互に出席し、助言を受けている。年1回は消防署からも出席され、助言・指導を受けている。地域包括支援センター職員の出席も年1/2以上はあり、GHの状況や行事の様子を画像や資料を使い説明し、理解を求めている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営推進会議を通じて、地域包括支援センターや介護保険課に取り組み報告や、意見交換を行い、協力関係の構築している。また、介護保険課とはその都度電話や訪問して情報を共有している。		

自己評価	外部評価	項目(2階 Bユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束はしておらず、マニュアルを整備、入職時と年に2回は身体拘束について施設内研修を行っている。身体拘束を行う上での弊害を理解した上で日々のケアを行うように徹底しており、身体拘束が起こりうる原因を減らす様になっている。身体拘束禁止委員会の設置を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている。	マニュアルを整備しており、新人研修を必須とし年2回は、虐待について施設内研修を行っている。施設内での虐待については、職員のストレス軽減や利用者の状態に注意している。虐待防止についての外部研修にも参加している。令和6年4月以降には委員会設置を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	マニュアルを整備しており、年に1回は、権利擁護や人権保護についての施設内研修を行っている。ご家族等の相談にも随時応じており、必要時はかけはし等を活用し、司法書士・社会福祉協議会の専門員等から、直接制度や活用方法について学び、連携を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	見学から契約に至る間、面接や電話連絡等も行い、十分な説明と質疑応答を行い、相互に納得の上で契約をしている。また、入居時や解約時前には基本的に家族に来苑して頂き、再度話し合いの時間を取っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議には、可能な限り利用者・家族に参加して頂き、意見等を伺い、運営に反映させており、施設入口には苦情BOXも設置している。		

自己評価	外部評価	項目(2階 Bユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日頃より職員から管理者、管理者から代表者へ意見等の連絡・相談体制を整えており、運営に反映するようにしている。またグループ内の本部会議も月に1回開催しており、代表者と管理者間で意見交換等を行っている。上意下達、下達上意。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	入職時に職員の思いや希望を聴取しており、入職後も資格取得や希望に応じてのグループ内異動(ユニット異動を含む)等を積極的に働きかけて、意欲向上を図っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	月に1回の施設内研修は職員が講師をしている。外部研修は施設内で案内し、参加出来るようにしている。また、新人職員の入職後はOJTを活用し、日々のレポートで目標や反省を踏まえて研修を行っている。技能実習生のトレーニングも、職員が日本語と介護技術をサポートしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	同一地域の同業者と連絡会を設立しており、情報交換・意見交換や合同レクリエーション等を行い、相互協力のもと、サービスの向上を図っている。最近の時事問題にて難しくなる事もある。他法人の運営推進会議への参加を行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	事前に家族を含め本人とも面談を行い、ニーズの把握を行い、傾聴・共感出来る関係作りをしている。また、入居前に利用されていたサービス機関の担当者からも情報を収集している。		

自己評価	外部評価	項目(2階 Bユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	利用申込時の面談で、家族より状況聞き、利用開始時も再度意向を伺い、不安や求めている事に応じ、傾聴・共感している。介護疲れからのレスパイトも考慮した対応を行っている。偏食からの食事摂取量について不安がある家族より、冷蔵庫を個別で設置して補食を持参頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談時にニーズ把握をしており、当苑でのサービス説明の他に、必要時は他のサービスや他事業所に関する特性や説明も行っている。また、隣接の介護付き有料老人ホームへの紹介も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者の得意な事や出来る事を考慮し、役割を持って生活して頂き、それらを披露する場面も提供している。また、人生の先輩として様々な話を聞き、暮らしを共にする生活者として、お互いに支え合い、喜怒哀楽を共有する環境作りをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会時に当苑での生活状況を説明し、家族との繋がりを維持し、利用者や家族の思いを共有するように努めている。月1回利用者の様子を楽々苑新聞で家族に伝えている。通常の面会、オンライン面会を行っている。HPへ写真を掲載する事で、家族が様子を確か出来るようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	面会に来られなかったり、遠方の場合には、オンライン面会や電話で話をしたり、記念撮影をして送付し、関係を維持出来るように支え、その年の面会者には年賀状を出すようしている。また機会がある毎に、本人の昔の様子等を聞き、日々の会話の中に取り入れている。		

自己評価	外部評価	項目(2階 Bユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者の生活習慣・趣味等を考慮して、利用者同士が助け合って生活出来るように支援している。また、孤立しそうな場合は職員が間に入り支援しており、配席についても、行事等その都度相性等を考慮している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	利用終了後も利用中に築いた関係を大切にしており、電話や面会する事で関係が途切れないように支援している。また、転居先には本人の情報提供を行っており、本人・家族・関係機関とも関係を継続出来る様にしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時や面会時に本人の思いや希望を聞き、職員間で共有して、出来るだけ希望に添えるように支援している。また、困難な場合でも職員が各利用者の立場に立って、思いや意向を把握し、家族対応やインフォーマルなサービスも含めて検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時や面会時にこれまでの生活歴等を家族や知人に聞いたり、日常会話の中からも把握し、かかりつけ医や前任のケアマネジャー、関係機関からも情報収集をして把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	業務日誌・行動記録・申し送り等にて、一人ひとりの状況把握に努めており、連絡ノートは出勤時に必ず目を通し、ミーティングや申し送り等も活用して、情報の共有をしている。また、日々のモニタリングも記録して、情報を共有している。		

自己評価	外部評価	項目(2階 Bユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>本人・家族・かかりつけ医・訪問看護職員・施設職員等がそれぞれの立場で意見を出し合い、計画作成担当者を中心に、協議して作成している。また、利用者毎の担当を定め密に情報収集を行って、意見を反映している。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>ケアプラン実施表と個別の行動記録に毎日記載し、連絡ノートや申し送りを活用しながら、身体面と精神面等の情報共有と共に、必要時にはプランの変更も行っている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>近隣同事業所同士の連携や情報交換にて、状況に応じて対応しており、必要時には行政や地域包括支援センター、民間サービスも視野に入れて活用している。また、本人や家族の依頼に応じて、外出支援を行っている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>消防には定期的に訪問して協力を依頼しており、運営推進会議の参加も要請している。地域の保育園交流会・中学校職場体験での受け入れを行い、普段関わりが少ない環境の中で刺激を受けて頂いている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>かかりつけ医は、入居前からのかかりつけ医を継続頂いたり、本人・家族の希望により決めており、受診・往診には職員が同行し、訪問看護職員とも連携して良好な関係を構築している。医療連携ノートを作成し、月に1回家族に報告し、必要時にも随時報告を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(2階 Bユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護と連携しており、利用者の健康観察・介護職員の不安や疑問点等も相談しており、訪問看護よりかかりつけ医に毎回結果を伝えている。また、24時間オンコール体制にて、必要時には連絡相談を行い、適切な対応が取れるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関と常に、意見や情報交換をしており、入院時には看護要約と共に直接情報提供を行い、入院中も家族や病院関係者と連絡を取り合っており、早期退院に向けて話し合いも行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	マニュアルを整備しており、重度化・看取り指針を作成し、契約時に家族に説明。また、本人・家族の意向を尊重して多様なケースに対応出来るように整備しており、かかりつけ医や訪問看護との情報共有や今後についての意見交換を行っている。看取りの研修を年1回は行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	早期発見、早期対応に力を入れ、マニュアルを整備しており、年に1回は緊急時対応について施設内研修を行っている。また、救急救命法やAEDの使い方等も周知している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	マニュアルを整備しており、年に1回は災害対策について施設内研修を行い、定期的に(5月・11月)避難訓練も行っている。また、運営推進会議等で地域に報告をすると共に協力を呼びかけている。		

自己評価	外部評価	項目(2階 Bユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	マニュアルを整備しており、年に1回は個人情報保護やプライバシーについて施設内研修を行っている。また、人格やプライバシーに配慮して、電話や面会時も本人・家族の同意の上で実施しており、利用者に対する声掛けにも配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者が自分の思い・希望を気兼ねなく表せるように、日々の会話や表情の変化で把握し、支援している。また、利用者本意を念頭において、自己決定出来るようにしており、思いを表せない場合でも、本人の意向に添えるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	各利用者の特性やペースに合わせて支援しており、その日の体調や希望を優先して支援するようにしており、必要に応じて個室や個別対応を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	季節や場面に合わせて利用者の衣類を変えており、必要時は家族に連絡して、服や物品を持って来て頂いている。また、美容師に来苑してもらい本人の希望を取り入れてカットを依頼している。また、行き慣れた美容院へご家族と一緒にいかれるご利用者もいる。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者同士の相性を考慮し、席の配置を決めており、職員も各テーブルに入って、食事の匂い・味・色彩等の話しをしながら楽しんで食事が出来るよう支援している。また、テーブル拭きや食後のトレ拭き等利用者と協働し、行っている。		

自己評価	外部評価	項目(2階 Bユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひと りの状態や力、習慣に応じた支援をし ている。	1日の食事量と飲水量を把握しており、 利用者に合わせて、食事形態・嗜好物・ 食事道具を提供している。また、本人や 家族からの情報収集も適宜行っており、 家族に協力を依頼する事もあり、栄養補 助食品の提供等も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人 の力に応じた口腔ケアをしている。	利用者の状態に応じて、職員が仕上げや ブラッシング等口腔ケアの支援を行っ ており、夜間は義歯を職員が洗浄し保管 している。また、訪問歯科と協力して定 期的な診察と職員の疑問等を報告して連 携をとっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄のパターン、習 慣を活かして、トイレでの排泄や排泄 の自立に向けた支援を行っている。	利用者ごとの排泄間隔やパターンを把握 するようにしており、それに応じて声か けや誘導・介助を行っている。トイレま での歩行やトイレ動作も生活リハビリと 考え、トイレでの排泄を促すように支援 している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲 食物の工夫や運動への働きかけ等、 個々に応じた予防に取り組んでいる。	利用者ごとの排便状況を把握しており、 体操時の腹部運動やマッサージ、飲水量 の増加を促したりして便秘の予防に努め ている。また、便秘時の利用者の身体 的・精神的弊害を理解して、必要時は医 師の指示のもと、各利用者に適した下 剤や座薬も使用している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わ せて入浴を楽しめるように、職員の都 合で曜日や時間帯を決めてしまわず に、個々に応じた入浴の支援をしてい る。	普通浴・シャワー浴等、利用者の希望や 状況に合わせて支援している。入浴時は 職員と一対一となるのでスキンシップ をとりながら様々な話をして、利用者 の興味や意欲を引き出すようにしている。		

自己評価	外部評価	項目(2階 Bユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	利用者ごとの生活習慣・就寝時間・睡眠パターンを把握しており、湿度や室温、服装にも気を配って安眠出来るように支援している。また、日中にしっかりと心と体を動かして夜間の安眠を促し、昼間も状況に合わせて休息出来るようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	利用者ごとの服薬管理表を職員各自が確認しており、内服薬の変更等があった場合には、連絡ノートを活用して情報の共有をしている。必要時には医師へ情報提供や確認を行っている。また、内服薬は個別に管理し、介助には、声に出して他職員と確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	利用者ごとの生活歴や特性に合わせて役割作りをしており、体操時やレクリエーション時でも利用者に合わせて支援している。また、行事等の実施や準備に関しても、家族を含め、特技に応じて協力して頂くようにしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	本人の希望を踏まえ、地域の行事に参加したり家族との外出を支援している。また必要時には突発的な外出支援にも対応しており、本人・家族にも案内をしている。最近の時事問題にて難しくなる事もある。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	利用者の能力に応じて管理を行い、必要時には家族と相談して本人管理や使用の支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目(2階 Bユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	携帯電話を持参の利用者の方は、いつでも電話出来るよう支援している。書道やレクリエーションで字を書く事をし、利用者の希望に応じて手紙の代筆や電話の支援をしている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ホールは、季節に沿った手作りの作品を飾り、計器を設置し湿度・室温に気を配り換気も行っている。コミュニケーションを取り易い丸テーブルを使用し、床は木目調で落ち着ける様になっている。トイレや浴室、洗面所にもナースコールが有り、安全・安心を提供している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	畳コーナーや居室では気の合った利用者同士が過ごされたり、状況によっては、スタッフルームを活用して個別レクリエーションや、家族等との面会を行ったりしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時に本人・家族と相談して寝具等馴染みの物や好みの物を持ってきて頂いたり、居室に家族や職員からのプレゼント等も飾っている。また、毎日居室の清掃や週に1回はシーツ交換を行い、汚染時にはその都度交換し、快適に過ごして頂ける様支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	危険物は手の届く所へは置かず、トイレ等は目の届く位置に分かりやすく表示している。入居時は繰り返し場所等を説明して把握出来るように支援している。また、手すりやナースコールも整備している。		

V アウトカム項目(2階 Bユニット) ← 左記()内へユニット名を記入願います

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム楽々苑

作成日 令和6年8月9日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議での家族参加がない。	ご家族へどのようなサービスを行っているのか、地域をどの様に支え、どのように支えられているかを知って頂く。	運営推進会議議事録をご家族用に纏め、送付する事で把握して頂く。	6か月
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。